

2004年度高学年（4，5，6年生）指導方針

加藤 昌洋

さる4月18日に行われた指導部会において、今年度のBJの指導方針とその体制について指導陣の話し合いが持たれた。この場において、年間の目標や指導者の役割、注意すべき点など大津監督から示された方針を確認することができた。

一方、今年度の問題として、年度当初の学年ごとのメンバー構成から、(例え、今後の入部に期待するとしても、現在のところ)6年生チームや5年生チームとして独立した試合参加等の対外的活動はできず、4年生を含めた2学年あるいは3学年に渡るメンバーで対応せざるを得ないということを重点に話し合い、次のような方針を立てた。

- ◎ 6年生チームあるいは5年生チームとしての試合参加については、招待試合等を無制限に受けることなく、11人制以外の試合の重視、他チームとの交流関係の維持、4年生の試合との重なり具合、あるいはその試合の参加意義等について、指導陣が総合的に検討して対応するという前提で、高学年（4，5，6年生）については、段階に応じた行き届いた指導や効率性の観点から、次のようなチーム構成でそれぞれ練習し、試合に臨むことを基本とする。ただし、練習時の人数が少ない場合、同一メニューで行う必要がある場合などは、合同で練習を行うこともある。

☆ U12（U11を含む）——高学年チーム

5，6年生（現在5人） + 4年生（3～5人）

☆ U10 ——4年生チーム

4年生のみで構成（ただし、状況により3年生の一部を加えることもある。）

なお、U12の試合時には、気候、試合数、負傷者等の状況、ポジション的にチームとして機能するための必要なメンバー構成、当該試合の前後の週での試合の有無、当該試合の位置づけなどに加えて、U10（4年生）の各選手の『体力』・『知力』・『気力』の状況、試合参加実績（一人ひとりの試合参加数の平準化）など指導陣の総合的な判断のもとで、試合の概ね1週間前までにU10からさらに若干名を選んで合流させる。

（選抜責任者： 大津監督、白澤コーチ、加藤コーチ）

- ※ 試合は練習の成果を確認する場であり、試合での課題は次の練習で改善を図ることが指導の原則である。従って、試合時の人数あわせだけの“応援部隊”的な考え方ではなく、普段の練習段階から選手間のコミュニケーションがとれ、技術、ゲーム理解、体力の面でもチームとして機能するよう、身体的・精神的な

成長度合いなどを考慮して、5，6年生（現在5人）に4年生3～5人程度を加えた8～10人を骨格としたチームをU12とし、4年生チームいわゆるU10とは別に練習や試合をする機会を持つことが必要であるという結論に至った。

また、高学年を完全に二分することの弊害を解消するため、U10からU12、あるいはU12からU10にといった移行の余地を残し、特に、U10の練習における各個人の取り組み状況（意識・意欲・姿勢）、スキルアップの状況、身体的な成長度合い等を指導陣が見極めて、U12の練習や試合に徐々に引き上げていくこととし、本年度の目標である“『体力』・『知力』・『気力』のバランスに配慮した育成”の実現を図るものとする。

※ U12・U10の振り分け、あるいはその後の移行に当たって、特に配慮が必要な事項として、上記のような考えのもとで行っている指導陣の判断に対して、子供たちが「選ばれる」ということを誤解し、変な優越感や劣等感を抱かないように説明することはもちろんのこと、ゴールデンエイジの前段階として必要な成長についての意識付け及びこの時期の基礎練習の重要性の理解、さらには選抜の入れ替えをチャレンジの目標として奮起させるなど、保護者ともども一丸となってサポートする体制に努めるものとする。

以上

（4／18 高学年ミーティング参加者 白澤、北山、明石、山田、石山、高木、加藤）

上記については、本年度の指導部会において指導者の話し合いを行い、高学年指導者の共通理解事項として加藤さんに取りまとめをしてもらったものです。
当分の間、このような運用としますので、皆様のご理解とご協力をお願いします。

指導部長 大津 保男